

【建設工業新聞 令和7年4月11日】

地域で学び 地域で育て

群馬建協ら新入社員研修

群馬県建設業協会（青柳剛会長）と群馬県建設産業団体連合会（同）は10日、前橋市の群馬建設会館で2025年度新入社員研修会を開いた。写真。会員企業37社から100人が参加。業界の基礎知識やビジネスマナーなどを学んだ。研修会は今回で12回目。東日本建設業保証群馬支店が協力している。

冒頭、青柳会長は「地域建設業がホワイト産業に大きくかじを切るための、時

間外労働の上限規制が始まって1年がたった」と述べ、最近の業界全体を取り巻く状況を伝えた。会場にいる同業他社の仲間とのコミュニケーションを促した上で、「会社の先輩とも一緒



になって学んでほしい」と呼び掛け、新入社員が地域で学び、地域で育つことに期待を寄せた。

研修では、コンサル・サポートハウス代表取締役の打尾貞治氏が「建設業に関する基礎知識」をテーマに講義した。続けて、行政書士・ファイナンシャルプランナーの飯塚重紀氏が「社会人として知っておきべき『マナーの基本』」を、研修屋社長の佐久間寿美江氏が「新社会人のためのビジネスマナー」を講演した。

新入社員研修会

災害に備え意識向上

群馬建協ら

群馬県建設業協会と群馬県建設産業団体連合会（ともに青柳剛会長）は10日、前橋市の群馬建設会館で2025年



度新入社員研修を開いた。37社から約100人が参加し、建設業の基礎知識や社会人としてのビジネスマナーを学んだ。写真。

青柳会長は冒頭、「会場の建設会館は竣工して6年目となるが、建物は出来上がって終わりではなくメンテナンスして大事に扱うことで初めて気持ちよく利用できる。これは建築・土木どちらも同じで、そういう心構えが大事になる。今日の研修では同業他社の人たちともコミュニケーションをとり、有意義な会としてほしい」と呼び掛けた。

業界を取り巻く環境にも言及し、「今年は全国の幅広い地域で近年にないほど豪雪に
なり、埼玉県の道路陥没事故や山林火災が起きるなど、災害に対する備えの意識が業界全体で高まっている。一方で、地域の建設業がホワイト産業に大きく舵を切るための時間外労働の上限規制が始まって1年がたった。協会としても来月の総会に向け、強い群馬に向けた施策を具体化していく」と力を込めた。

研修では、コンサル・サポートハウスの打尾貞治代表取締役、行政書士でファイナンシャルプランナーの飯塚重紀氏、研修屋の佐久間寿美江社長の3人を講師に招き、建設業に関する基礎知識、マナーの基本、ビジネスマナーに関する講義を受けた。

群建協

基礎知識など学ぶ

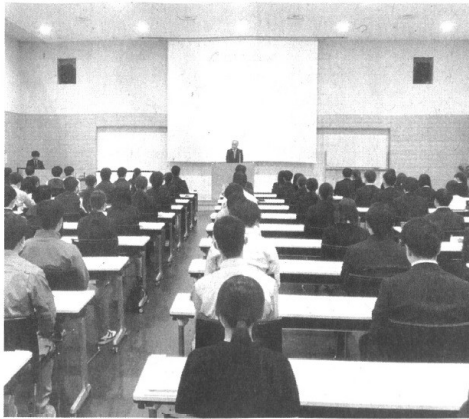
新入社員研修会を開く



青柳会長

群馬県建設業協会（青柳剛会長）と群馬県建設産業団体連合会（同会長）は10日、群馬建設会館で

新入社員研修会を開催した。現場関係者や事務関係者など37社100人が参加し、建設業に関する基礎知識や社会人として知っておくべきマナーの基本、ビジネスマナーについて学んだ。講義に先立ちあいさつ



37社100人が参加

に立った青柳会長は「建設業に入社されてからこうした早い時期の研修こそ大事。同業他社の人たちともコミュニケーションをしっかりと図り、心に残る有意義な研修会となることを期待している」と呼びかけた。

研修会は建設業に関する基礎知識や社会人として知っておくべきマナーの基本、ビジネスマナーを内容として実施。参加者は研修を受けるだけでなく、講師紹介や講義の始まりと終わりの号令を行った。

参加者の平均年齢は19・9歳で、男女比は男性71人、女性29人だった。職種別では現場関係者72人、事務関係者21人、未定・職種記載なし7人が参加した。